

令和5年度 第2回 大野市総合計画・総合戦略推進会議 議事メモ

日時：8月10日(木) 10時～11時30分

場所：結とぴあ 305・306号室(3階)

○委員：18名(3名欠席)

○市：行政経営部長、政策推進課長、政策推進課3名

1 開会

事務局より開会

2 会長あいさつ

- ・最近のある調査結果で、福井県のGDPの伸び率が全国で3番目に高いものであった。
- ・その要因には北陸新幹線や中部縦貫自動車道の工事が影響しており、決して現在の経済が活性化している訳ではない。
- ・経済を変えていく必要があり、本会議は地域戦略において重要な役割を担っている。このことを皆様に認識いただき、有意義な会議にしたいと考えているので協力をお願いしたい。

3 議事

(1) 第六次大野市総合計画評価報告書(案)について・・・資料1・資料2

(事務局説明の概要)

- ・全24項目の施策評価シートについて、内部評価及び外部評価、総合評価を一覧に示して説明
- ・本日以降の修正の確認については、会長一任としたい。

(意見等)

会長：「7 林業」は今後、評価が良くなる可能性があるのかが疑問である。「24 行財政」の総合評価は控え目と思う。

委員：「24 行財政」の総合評価は控え目である。もう一つランクを上げて良いと感じる。また、外部評価を行うに当たって、市職員がどのような根拠に基づいて内部評価を行ったのか、例えば、年度ごとの事業計画やエビデンス集などの資料があると外部評価を補完することができると思う。

事務局：内部評価では現状、課題に対する取組みを担当者が記載し、課長や部長が評価する方法で行っている。内部評価の過程の根拠資料の中で、提示することにより外部評価がしやすくなるというものがあれば次回から提示することを検討したい。

委員：観光で大野市がどれだけ潤ったのか、稼ぐことができたのかを表す成果指標が観光消費額だと思うが、目標に対して達成できていない状況である。北陸新幹線延

伸、中部縦貫自動車道開通の好機をどのように生かしていくかということにもっと取り組むべきである。星空観光バスを運行する事業者に聞いた話であるが、星空は天候にかなり左右される、見れないとお客さんは不満を持って帰ると言う。それを聞いてピンポイントの観光ではダメだと思った。星空観光を進めるにしても、まちなかにも足を運んでもらえるような仕掛けが必要である。天候が悪く星空が見えなくても代替の観光を提供し、総合的に満足してもらえるような用意が必要である。一方で、観光を進めるとその弊害としてオーバーツーリズムという問題が生じる。例えば、星空を見に行くマイカーの旅行者が増加すると、道路の損傷、ごみの問題、トイレの問題などが発生する。できることなら、バスなどを利用しある程度まとまった人数で六呂師に行ってもらい、その後、まちなかで宿泊してもらうことが理想である。そのためには、公共交通をまちなかと南六呂師間を運行させることなどが必要である。また、大野市は水をアピールすることが対外的に最も効果があると思う。名水で作られた醤油、味噌、酒があるので、水を教育目的だけではなく観光にも活用すべきだと思う。大野市は観光の三大課題がある。①二次交通の確保ができていないこと、②宿泊収容能力が不足していること、③店舗の稼ぎにつながるガイディングが不十分であること。これらの課題を何とかしないと高速交通網延伸の好機を逃してしまうことにつながる。

委員：「7 林業」は成果指標に「森林間伐面積」を設定しているが、県知事は「今後は主伐を中心にやっていく」と言っている。当初設定した成果指標が、時間の流れとともに施策が変わってしまい、目標としてそぐわないものになってしまう場合がある。成果指標を変更することは難しいとは思いますが、どこかの時点で修正した方が意味のあるものになると思う。極端に言うと、成果指標を過大に設定すると、すべての年度が低評価になり、逆に過小に設定するとすべての年度が高評価になってしまう。

会長：総合評価全体的に高評価が少ないように感じる。自信を持った行政運営を展開する上で控え目な評価は良い方向に働かない。今後の検討材料にしたい。

委員：職員は頑張っていると思うので高評価だと思ったら自信を持って高評価を付けるべきである。すべてが普通の評価だったら、市役所は頑張っていないのかと思われてしまう。このような意見があることを職員に伝えていただきたい。委員として市は頑張っていると感じていても、職員が普通の評価を付けていると、高評価を付けにくいのが心情である。

事務局：いただいた意見は職員に伝える。一方で、行政としては目標を高く持つことが大事と思っている。ただし、夢と目標は違うので達成できる範囲の目標を設定し、その達成に向けて取り組んでいきたい。

委員：林業について、間伐面積が減っていることは間違いないが、先ほどの意見にあったように、今後は主伐をメインにするという意味からも、私有林の集積林業地を中心に主伐を行い、再造林に持っていければ林業振興の嵩上げにつながると思う。

委員：自分の書いた意見が評価報告書に反映されているので問題ないと考える。

委員：デジタル田園都市国家構想交付金地方創生推進タイプのなかで、飛び地自治体連携による健康まちづくり事業とあるが、どのような連携を行っているのか。

事務局：大野市、兵庫県西脇市、岩手県金ケ崎町、京都府南丹市が連携して、ヘルスウォーキングプログラムに取り組んでいる。

委員：市役所職員の人材育成だけではなく、民間の従業員のシゴト改革や倫理観を高めるための研修に対する補助などがあると良い。

事務局：民間事業者の人材確保や事業継承への支援は重要と考えている。昨年度結成した結の故郷ビジネスサポートチームでは、経営支援や事業承継の支援などを行っており、今後も事業者の経営を支援していきたい。

委員：最近大野市が表明した「こどもまんなか応援サポーター」活動宣言を行ったが、分野を越えて子どもたちに実りのある取組みをお願いしたい。また、本推進会議において、市立保育園からの意見だけでなく、私立保育園の意見はいただかないのか。さらに、20～40代で、地域で活躍している人の意見を施策に反映できると良いと思う。

事務局：こどもまんなか応援サポーター活動宣言に関連する取組みは今後進めていくことになるが、例えば、屋内型子どもの遊び場の整備では、本年度に実施設計を、来年度に整備を行う予定である。子どもを大野で育てて良かったと思ってもらえるよう全庁的に取り組んでいきたい。私立保育園や20～40代の意見は、それぞれの事業担当課で意見をいただいているものと認識している。また、そのような人たちの活動への支援にも出来る範囲で対応する。

(2) その他

・ 専門部会「デジタル部会」について **資料3**

資料に沿って事務局から説明

・ 今後のスケジュールについて **資料4**

資料に沿って事務局から説明

・ 市制施行 70 周年記念事業基本方針について **資料5**

資料に沿って事務局から説明

4 閉会

副会長により閉会

>> 終了